



校長室だより

令和5年度
10月16日
NO. 27

成長することと、みんなで「楽しむ」ということ。



金木犀の香りが、通学路にも校内にも漂います。澄んだ青空に、秋風が心地よい香りを運びます。学芸会に向けて、気持ちのこもった子供たちの声も、秋風に運ばれて行きます。

岡崎市の学校では、webQU という学級づくりのための「アンケート」を実施しています。夏休みに、その webQU を作られた早稲田大学教授の河村茂雄博士のお話を聞きました。今の教育の基本となる「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング) やインクルーシブ教育の推進、ここ数年のコロナ等の影響もあり、日本の教育は大きく変わろうとしているそうです。これからの学校や学級では、「ネットを見ればわかる」一昔前の「知識重視」から、「資質・能力」が重視され、「人と協働し合わないといけない内容」へと変わっていくそうです。目指すべき「子供の多様性を前提に、協働し合える世界」、その中では、今まで習ったことを繰り返すだけでなく、人と協力して新しいものを作る「協働」が大事である、繰り返しはむしろ「後退」で、脳細胞も劣化していくのだと言われました。

また先日は、株式会社「Dancing Einstein」CEO で応用神経科学者の青砥瑞人氏に「脳科学と自律する子」についてお話を聞きました。(脳の話ばかりですみません。) まず「自律」とは、「自己成長を促すこと」であると言いき、成長のために当然、脳に「ストレス」がかかるわけですが、大事なものは「ストレス」をなくすのではなく、コントロールすることだそうです。『幸せな子』を育てるのでなく、どんな境遇でも『幸せになれる子』を育てることが大事なのだそうです。また脳科学的に「成長する」とは、今までの古い回路・情報(今までの考え方・仕方)の上に、新しい情報を与え新しい神経回路を作ることだそうです。もちろんそこには「葛藤」(ストレス)がかかりますが、その「葛藤」を乗り越え新しい回路はできるそうです。そのために大事なものは、できた「結果」(回路)ではなく、できるまでの「プロセス(過程)」が大事だそうです。どうやってできたかを記憶として残すことが大事だと言います。その時に一番の力になるのが、「ドーパミン(DA)」だそうです。それは興味・好奇心をもって、大好きで楽しんで行うことで多く出るもので、つまり「楽しむ力」がパフォーマンスを上げ、しいては成長につながると言われました。

スポーツ選手がよく「試合を楽しみたい」と言います。実はそれがよいパフォーマンスを生み、さらに個を成長させるのに必要なことだと言えます。行事でも部活でも、勉強でも同じでしょう。まずは「全力で意見を言ったり」「全力で体を動かしたり」「全力で役になり切ったり」して楽しむことが、「成長」につながると言えるでしょう。2学期が始まり、学校でも新しい委員会がスタートしました。「今までこうだったから」ではなく、「みんなでこうしたい」という楽しみが、きっと学校を成長させてくれることと、期待しています。